

# 七宝焼

- 活動場所 創作工作室、研修室1、研修室2
- 所要時間 1.5～2時間（人数が多ければ3時間程度かかる場合もあります）
- 対応人数 創作工作室→最大50名、研修室2→最大30名、研修室1→最大100名
- 団体が準備するもの 活動資料、ストップウォッチ（可能であれば）

## 1 事前準備

活動の30分～1時間前に電気がまのスイッチを必ず入れておきましょう。



このダイヤルを左へ回して『Hi』に合わせます。

ダイヤルを『Hi』に合わせた後に、左のランプが付いているのを確認します。

※電気がまの電源は、漏電・ショート・停電にならないように、電源コードを系統の異なる電源に差します。（系統Aの電源に1つ、系統Bの電源に1つ）延長コードの使用は、電熱で火傷をする恐れがありますので、絶対に避けてください。

工作室左の棚から七宝焼きの道具箱を出します。



一番左上の棚から右の写真の道具箱をそれぞれ取り出します。

①は窯焼きの際に使用します。②は、下準備やデザインの時に使用します。③は絵具になります。上記3つの用具箱を準備したら、使用する用具一式の見本を準備します。



②の道具箱から

台座・ロールペーパー・スポンジ（やすり）・デザイン用竹串

③の道具箱から

デザイン用カップ×2・七宝焼き用絵具（8色入り）を取り出し、左図のように揃えておきます。

※キーホルダーは、別の道具箱より指定個数分取り出ししておきましょう。

## 2 作業工程

### (1) 銅板を磨く



木箱からスポンジを用意します。キーホルダーを袋の中から取り出し、銅板だけを取り出します。ホルダーの方は、無くさないように、袋に戻して保管しておきます。



スポンジを銅板にこすり付け、表面を磨いていきます。端の方までしっかり磨くことで焼き上がりがきれいになります。(写真右図) 磨き終わったら、スポンジを元の道具箱へ戻します。

### (2) デザイン準備をする

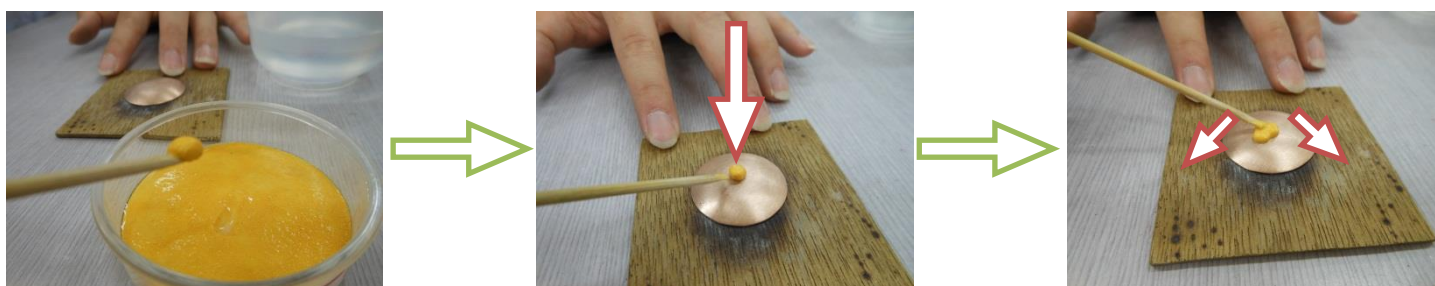


だいたいこの辺まで  
入れる

台座の上に、磨いた銅板を置きます。絵具セットの中にそれぞれ白・赤・桃・紺・空・緑・黄・黒の8色があるか確認します。次に、それぞれのカップへ半分より少ない程度の水を入れます。1つは絵具へ水を足すためのものとして使用し、もう1つは竹串を洗うためのものとして使用します。

### (3) デザイン

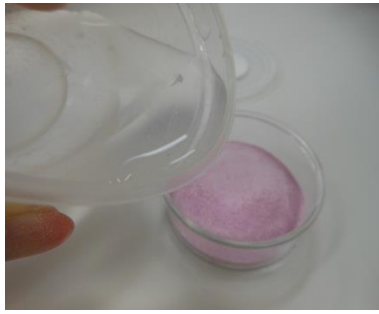
準備が整ったら、いよいよデザインです。



竹串の平たい部分に絵具を乗せ、銅板の中心に絵具を盛ります。竹串で絵具を押しつぶすように、中心から外側へ絵具を広げていき、絵具の厚さが均等になるようにし、下地となる色を塗ります。(真ん中がやや厚め、外側が若干薄めでも可能。また、絵具は外側の縁に、盛りすぎないように注意しましょう。焼き入れ後に絵具がはみ出て、キーホルダーにはまらなくなる)

### ※絵具の伸びが悪い場合

絵具が粉っぽく、伸びが悪い場合は水を足して調整する。



• 水足し用カップを使い、水を足していきます。水を入れすぎないように、ゆっくりと少しずつ入れましょう。水を入れた後は、絵具全体に水が混ざるように、馴染ませます。  
(竹串を洗うための水は絶対に使用しないこと!!)

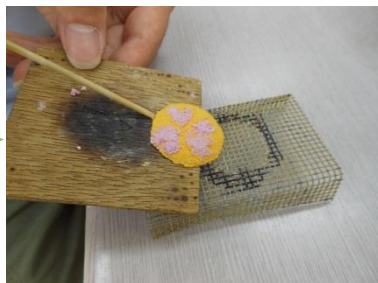
### ※絵具を足す場合や別の色を使用する場合 (重要!!)



※下地となる色を全体にまぶし、他の色を使用してデザインする際には、必ず以下の点を守ってください。  
• 他の色を足してデザインする時には、竹串洗い用のカップの中に竹串を入れ、付着している絵具をきれいに洗い落とします (他の色と混ざるのを避けるため)。  
• 洗い落としきれない場合は、ロールペーパーを適量取り、ふき取りましょう。  
(絵具容器にも色が混ざらないように気をつけましょう)

### (4) 電気がま入れ準備

デザインが終わったら、絵具用具一式を道具箱へ戻し、焼き入れの準備をします。



①の道具箱から金網を1枚用意し、竹串を使って台座から金網へ銅板を移動します (写真中図)。移動後は、濡らしたロールペーパーで台座と竹串についている絵具をきれいにふき取り、②の道具箱へ戻しましょう。

### (5) 焼き入れ

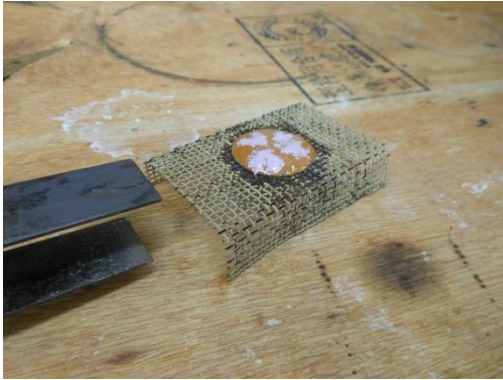
いよいよ焼き入れになります。



※安全管理の点から電気がま入れは引率者が行うようにしてください。

①の道具箱より、皮手袋・火ばさみを用意します。皮手袋を着用したら、火ばさみで金網を火ばさみで挟み、電気がまの中へと入れます。

電気がまの中に入れてから、約800℃を維持して、約1分前後焼き上がりを待ちます。  
※ストップウォッチを使用し、自分で時間を計りながら様子を見ると良いでしょう。



- 焼きあがったら、火ばさみで金網を取り出し、厚めの置き板の上に置き、熱が冷めるのを待ちます（10分～15分程度）。  
※とても熱くなっているため、火傷の注意を事前に促しておきます。  
※置き板は、焼き上げ前に事前に用意しておきます。
- 冷めるのを待つ間に、使用した場所の片付けや清掃を行うと、次の活動が展開しやすくなります。

## (6) 仕上げ



- 焼きあがった銅板は、絵具により金網とくっついている場合があります。その場合は、写真左図のように、金網を軽くねじると、銅板がはがれやすくなります。無理にはがそうとすると、デザインした部分が割れる恐れもあるので、気をつけましょう。

銅板をはがしたら、キーホルダーへはめ込む準備をします。



やすりを使用し、突起した絵具を削り、ホルダーに収まるようにします。収まるのを確認できたら、木工用ボンドをホルダーの外周にしっかりと塗りつけます（乾くと透明になるので、接着面は見えません）。



- 接着する時は、デザインの向きに気を付けて貼りましょう。  
ボンドが乾くと・・・

# 七宝焼の完成！！！！

## (7) 後片付け・整理

各作業工程で、使用した道具の片付けについて取り上げていましたが、ここでは、その片付けについて補足します。

### ○各道具箱の中身と片付け方

#### ①の道具箱



- スポンジと竹串は、決められた容器の中に戻します。
- 台座は、きれいに並べます。
- 失敗例の見本や色の見本を使用した場合は、袋にまとめて保管します。

#### ②の道具箱



- ②の道具箱は全部で2つあり、中身はどちらも左図のようになっています。
- 絵具の種類がきちんとカップ・ふたの両方に書いてある8色になっていて、全部で6セットあるか確認します。
- 絵具に水分が含まれている時は、ロールペーパーでふき取ってから収納します。
- カップの数が半分ずつ分かれているか確認します。

#### ③の道具箱



- 中に皮手袋・工程表・火ばさみ・金網が入っているか確認します。
- 金網が缶の中にきちんと入るように片付けます。
- 皮手袋が左右セットできちんとあるか確認します。

### ○その他



木工用ボンドは、この棚に戻しましょう。



やすりは、この棚に戻しましょう。



使用した雑巾や机拭きはきちんと洗ってから物干しに掛け、「Not Washed」「未洗濯」のプレートを掛ける。

- 最後は、床をきれいに掃き、椅子を元に戻しましょう。